

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502546		
法人名	サッポロ・ライフケア株式会社		
事業所名	グループホーム虹の家白石		
所在地	札幌市白石区平和通11北3番14号		
自己評価作成日	平成31年1月20日	評価結果市町村受理日	平成31年2月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170502546-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170502546-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人のペースに合わせて個々に適した温かい介護を心掛け、ご家族にも介護協力を得ながらアットホームな雰囲気を大切にしながら、最後まで心を込めて安心した生活ができるように支援させて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム虹の家白石」は、バス停から徒歩で10分程の静かな住宅地に立地している一般住宅と同じ外観の2階建て1ユニットのグループホームである。室内には多くの観葉植物や花、懐かしい調度品もあり、利用者が昔の思い出を語りながら穏やかに過ごせる家庭的な環境になっている。管理者と職員は普段から近隣住民との交流に努め、地域に根ざした事業所を目指して前向きに取り組んでいる。運営推進会議では、日常生活の中で気付いた事について参加者からアドバイスや意見を聞き取り運営やケアに反映させている。理念に示す利用者一人ひとりの尊厳と人格の尊重を基本に、日々の生活や看取りに対する本人の意向を確認して最後までその人らしい自然な生活を継続できるように支援している。利用開始前から家族や利用者や信頼関係を築き、家族と協力しながら自宅への帰宅やペットの譲渡先訪問など本人が安心して新しい生活に馴染めるように個々に応じて細やかに対応している。管理者と総務部長は、職員の意見や提案に耳を傾けてケアや運営に反映させながら働きやすい職場環境の整備に努めている。家族の協力を得ながら外出や外気浴を積極的に取り入れ、利用者の気分転換を図っている。家族の悩みに真摯に向き合う管理者や職員の姿は、多くの家族の支えと安心感につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やスタッフルームに理念をかかげ共有し実践している。	職員と一緒に作成した事業所の理念と、地域密着型サービスの意義を踏まえたケア理念を事業所の要所に掲示し、職員採用時に説明している。各職員は、掲示している理念を日々確認しながら実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段からあいさつを交わしたり、ホームでのクリスマス会には町内会の有志の方々が来ている。また、町内会の新年会には利用者様と家族が参加し、ホーム長が手伝いをしている。	事業所のクリスマス会に、町内のフラダンスや日本舞踊、歌などのサークルの方が来訪している。近隣の方から野菜の差し入れを受ける事もある。職員の子供のピアノ演奏を楽しむ機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、町内会の方に認知症について、身体状況の変化について、対応方法等話している。見学者にも相談やアドバイスをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を開催し、行事報告や利用者様、職員、ホームの状況などを報告し構成員の方々より、意見、要望を頂きサービス向上に活かせるよう努力している。	身体拘束等の適正化を検討する委員会を運営推進会議と一体的に設置し、会議後に委員会で情報交換している。地震や看取りケア、外部評価の報告をしている。参加者から情報を得る事もあるが、最近では事業所からの報告が中心になっている。	会議案内にテーマを記載して参加できない家族の意見を事前に聞き取ったり、ミニ勉強会なども取り入れるなどの工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所生活保護担当者とは連絡を密に取り実情の把握をして頂くよう取り組んでいる。	管理者は、書類の申請手続きなどで区役所を訪問したり、保護課職員が来訪した時は利用者の様子を伝えながら情報交換している。保護課の担当職員が交代した時も協力関係を築けるように、事業所の状況を積極的に伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束等適正化に向けた指針」を策定し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員が日頃から身体拘束について意識できるように、「禁止の対象となる具体的な行為」を事務所の机に表示している。身体拘束に関する勉強会として、外部研修後の報告研修を含む内部研修を年2回実施しているが、カンファレンス時に実施しているため研修記録が十分とは言えない。	身体拘束に関する内部研修記録は、カンファレンス記録と別綴りで整理するよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い防止に努めている。		

グループホーム 虹の家白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し成年後見制度について学んだ。また、2名の方に後見人がついている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にもそれ以降も不安、疑問、理解しかねていることがあれば何度でも説明させて頂き、理解、納得をして頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	総務部長や管理者に何でも話せる環境を作り意見を頂いている。	利用開始前から家族や本人との信頼関係作りを努め、率直な意見や要望が発言しやすい環境を整備している。家族の意見や要望は、個人ファイルに記録して職員間で情報を共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	総務部長が現場へ赴き、職員の意見等聞いている。	管理者は、職員の意見や提案に耳を傾けてケアや運営に活かしている。新しい職員の意見も尊重し、常に利用者本位のケアができるように職員間で活発に意見交換している。職員は、勤務体制に応じてリーダーの役割を毎日交代している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得が出来るように手配したり、資格取得により手当を上げるなど、環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に出られるように機会の確保をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が区や市の管理者連絡会に出られるようにしている。また、白石区のケア連絡協議会に参加し交流している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の希望や要望を伺い、不安に思っている事に耳を傾け安心の確保につなげる。しっかりした信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階から関係づくりに努め、入居に対しての不安や、入居後の要望についてもよく話すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族のお話を伺うことにより必要な支援と、ホームで出来ること、他のサービス利用が望ましいのかを説明しご理解を得るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に様々な作業を共に行い楽しい時間が共有できるように努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪された時には、ご本人の普段の状況をお話している。ご本人が喜んだり楽しそうにしていたことばかりではなく、困っている事なども普段の様子としてお話をさせて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みである友人、家族、職員の関係が途切れないように働きかけている。	利用者の親族が亡くなった時に近隣に住んでいた友人がお参りに来たり、宗教関係の知人が訪ねて来る利用者もいる。家族と一緒に自宅に帰ったり、ペットの譲渡先を訪問して来た利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や季節の飾り物作り、行事など楽しみを共有し、利用者様同士の好みに応じて共有感を大切に支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方のお見舞いに行ったり亡くなった方の葬儀に参列させて頂いたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話だけでなく、職員全員が日々の生活を見守る中で利用者様の良い表情や態度を観察し、本人本位の生活をして頂けるよう努めている。	会話や表情から希望や意向の把握に努めている。利用開始時に家族から趣味や嗜好、生活歴などの情報を聞き取り、センター方式シート(C-1-2)に変化を追記してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は生活暦等の話を聞いた際、記録に残して情報を共有するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が得た情報は記録したり、お互いに情報交換したりと職員全員が利用者様一人ひとり、どのように過ごされているか把握出来るようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りの時やケアカンファレンス等でモニタリングを行い、意見交換をし、利用者様やご家族の要望を確認しながら介護計画を見直している。	普段から本人と家族の意向や希望を聞き取り、日常生活・楽しみ・身体状況の項目に分けて、各利用者に沿った介護計画を作成している。24時間シートや介護記録に日々の変化や課題を記入し、介護計画の評価や見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間チェックシートにて実践・結果をチェックし、気づきやその時々声掛けの仕方など個人記録に書き情報を共有し、介護の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	皆さん重度化している為、個々に対応するよう努めた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の中に市民後見人がついている方がいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療、月4回の訪問看護によって健康管理がされている他、体調に変化があった時には、その都度主治医に報告し、指示を頂き、必要があれば他医療機関を受診もしている。	昨年、訪問診療の協力医療機関が変更になっている。医療ノートに受診記録を記入し、往診時に発行される「在宅療養生活のポイント」の書類も保管している。精神科など、本人の状況説明が必要な場合は事業所で受診を支援し、医師と連携している。	

グループホーム 虹の家白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護の時に一週間の様子を話し必要に応じて対処法など適切に対応を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は担当医より入院先の病院へ情報提供をし、日常の状態は管理者が対応している。退院については早期退院できるように病院関係者、家族、利用者様と情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針を作成し、それに基づいて支援に取り組んでいる。	「重度化した場合の対応に係る指針」を作成して利用開始時に説明している。本人の意向を事前に確認し、状態変化に応じて家族に看取りの指針を説明して同意書を取り交わしている。昨年も看取りを実施し、現在も看取りケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し、全職員が心構えを持てるようにしている。また、救命救急法の講習も受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年度の地震災害を受けてマニュアルの見直しを行った。また、その災害により町内会との協力の大切さも再認識した。	年間2回、昼夜の火災を想定した火災避難訓練を実施し、内1回は消防署の協力を得て地域住民参加の下に実施している。職員の救急救命訓練の受講も計画的に進めている。今後、地震時のケア別の個別対応についても検討したいと考えている。	
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けには職員全員が意識をしながら行っている。個人記録も頭文字で記入している。	名前は「さん」付けとしているが、本人が喜ぶ愛称で呼びかける事もある。利用者への言葉がけで気になる時は職員間で注意し共に学び合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で判断できないような場合は、二者択一などで選択して頂く等の工夫をして出来るだけ個人の希望や好みに添えるよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活のペースを考え、柔軟な対応が出来るように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時など気に入ったものを着て頂けるようコミュニケーションを取りながら選んだり介助をしたりしている。		

グループホーム 虹の家白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好き嫌いを考慮してメニューを考えた。料理の下ごしらえなどで利用者様が一緒に活動できるように、お一人お一人に合わせた働きかけをしている。	献立の内容を見て調理法を変えたり、行事や誕生日には赤飯や「鰻ちらし寿司」などを提供している。ホットケーキ作りに利用者も参加したり、職員の手作りでおやつを楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	決まった時間の水分とは別に希望やお手伝いの後などにコーヒー、ココアやコーラなど提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に合わせてガーゼやスポンジを使用したり、本人の力に応じ声掛けにより行って頂いたりしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ、パット利用の方、車椅子の方もトイレ誘導し排泄して頂いている。夜間も各利用者様の排泄パターンに合わせて声掛けトイレ誘導させて頂いている。	24時間シートに排泄を記録し、立位がとれる場合は可能な限りトイレに誘導している。訴えがない時は活動の区切りに声をかけ失敗を少なくしている。パンツ感覚で自分で動作ができるように、意向や状態に合わせてリハビリパンツで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動や腹部のマッサージをしたり、ヨーグルトやオリゴ糖を摂取して頂いたり便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回曜日を決めているが、その日の体調や気分により変更できるようにしている。	日曜を予備日とし、午後の時間帯に入浴を支援している。同性介助を基本とし、湯加減の希望などを聞きながら循環式の浴槽でゆったりと入浴を楽しんでいる。看取りの場合も本人の意向でシャワー浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の表情や行動などから休息を促している。ベッドシーツは常に清潔で居室内の温度や湿度の調節をし、夜間も気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人で服薬できる方でも、確実に飲み込むまで見守りを行っている。内服変更の場合はノートに記入し確実に申し送り、症状の変化がないか観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物や新聞たみなど出来る事を行って頂いたり、歌を聞いたり踊ったりしている。		

グループホーム 虹の家白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得ながら散歩や外食などに出掛けている。	暖かい時期には、車椅子の利用者も近隣周辺や近くの公園を散歩したり、玄関前のベンチでおやつを食べる事もある。家族と散歩や買い物、外食を楽しむ利用者もいる。近隣や近くの公園で、桜の花見や紅葉を見物して季節を感じている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や散歩の時には買い物ができるように支援させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の事情を考慮の上、希望があれば対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーで車椅子の方も安心して過して頂けるようになっている。日当たりの良い居間にはソファや畳、ピアノがありくつろげる空間を作っている。季節ごとの飾りつけも工夫している。	1階に6室、2階には3室の他、居間や食堂があり、天窓や出窓から光が入り明るく開放感がある。出窓に季節の装飾のほか、観葉植物やランの花が置かれている。畳スペースには懐かしい昔の置物、壁には利用者の作品を飾り寛げる雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファに座ったり、テーブル席にいたりご自分の好きな所にいて音楽を楽しんだりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を使用したり、使い勝手の良い家具を購入したり、写真や自分の好きな物を飾ったりしている。	居室には洋服や整理ダンス、テレビ、小物類が持ち込まれている。毎日遺影にお水を供えている居室も見られる。縫いぐるみ、時計や家族の写真、作品などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭用エレベーターがあり下りた時にどこかが分かるように表示し、エレベーター内にも行き先を表示している。又、各お部屋には表札を付けてご自分のお部屋を分かるようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 虹の家白石

作成日：平成 31年 2月 18日

市町村受理日：平成 31年 2月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束に関する内部研修記録がカンファレンス記録と一緒にしている。	身体拘束に関する事は別にしてファイリングする。	身体拘束に関する研修及び身体拘束ゼロ推進委員会会議録をファイリングする。	1週間
2	4	運営推進会議の内容がマンネリになっている。	年間6回の会議の中でテーマを決めて勉強会などを数回行う。	時節に合ったテーマを決め、関係する機関に協力して頂きながら年2回～3回程度ミニ勉強会をする。	2年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。